

令和六年度 入学試験（一般 第四回）問題（国語）

一次の文章を読んで、後の【1】～【4】に答えなさい。

テレビをみていたら、幼稚園児を持つお母さんの心のケアを扱った番組が放送中であった。さまざまの悩みを抱えたお母さんが登場して来るのだが、その中の一人に、こういう人がいた。

自分の子供がとても元気で、幼稚園で他の子供を叩いたり、玩具を奪い取ったりするので、他のお母さん方から白い眼でみられ、仲間はずれにされる。そのため、幼稚園をやめて、子供と二人、遊園地や公園で時間を過しているが、子供がやがて小学校へ行くようになれば、それも行かない。自分のような交際下手が他のお母さんとうまくやって行けるか自信がない……といった悩みであり、番組ではその趣旨に従って、どうやったら他のお母さん達と親しく出来るかについて、まず積極的に話をしてみるのだとの、話題をどうやってみつけるかなどに關して、専門家が説明をしていた。

眺めていて、なんだか不思議な気がした。

このお母さん、自分のことばかり考えていて、本末転倒しているんじゃないか、母親として最も心配しなくてはならないのは、我が子の問題で、幼稚園にせよ、小学校にせよ、そこは子供が通って心身を鍛え、学問に精進する所で、お母さん方の交際の場ではない。

だから、このお母さんが一番最初に解決しなければいけないのは、我が子が他人の子を理由もなしに叩いたり、玩具を取ったりする行動についてであるのに、このお母さん、ちっとも、それを気にしていない。

第一、我が子の性格を表現するのに、とても元気なので、とは何事か。あなたの子供のやっていることは元気ではなく、乱暴とか粗暴とかいう日本語で表現するのが正しい。

手のつけられない乱暴な子供を、第三者があの子は乱暴で、とはいいかねて、あちらのお子さんは元気すぎて、というような時に元気という言葉を止むなく使用するので、いってみれば、随分とアした表現なのである。

粗暴でまわりの子供から嫌われた我が子を、元気なのでと認識している所に、このお母さんの馬鹿さ*があるのです、そうした我が子を叱ることも、躰をすることも出来ず、うちの子は元気なのでといっているお母さんなればこそ、他のお母さんは眉をひそめ仲間はずれにせざるを得ないということすらわからないで、何が、心のケアだ、お母さんとのつき合い方だと腹が立って来る。

第一、集団の中へすんなり入って行けるかと心配するのは小学校一年生の悩みであって、子持ちのお母さんが今更、悩んでいてどうするのだとどなりつけてやりたいくらいなのに、番組では幼児をさとするが如くいきかせ、それに対して三十はとくに過ぎていると思われるお母さんが、高校生のような口調で、でも、だって、だけど、と一々、反論とか口答えを続けている。

で、テレビのスイッチを切って、考えた。

この①の親が我が子に対する愛情をかん違いしている理由の一つに、言葉づかいがありはしないだろうか。子供に何をしてやりたいという言い方は乱暴だともいうのか、何をしてあげたいというのが一般的になった。よい教育を受けさせてあげたい、だから、よい幼稚園にお受験させてあげたい、よいお車に乗って、よい洋服を着て、自分の好きなことを自由にさせてあげたい、英語のお勉強をさせてあげたい、日本の大学に落ちてかわいそうだから外国へ留学させてあげたい。

凄い親は何をしてさしあげたい、とまで、我が子にいう。更には自分の家のペットにまで、おやつには何をあげるのだの、散歩をさせてあげているなぞとおっしゃる。

それで思い出したが、二十年ほど昔、或る席で、私が自分の娘のことを話して、親として出来るだけの躰をしてやりたいと思いますが、なかなか思うにまかせず、といったら、或る女性から、随分、凄いことをおっしゃいますのね、と非難がましくいわれて面喰ったことがあった。

それにしても、親が我が子を敬い奉って、何をしてさしあげたい、といい続け、幼稚園から大学まで最高教育をしてさし上げた結果はどうなのだろう。

今から四十年前、東大生にアンケートを求めて、日頃、よく読む雑誌はと聞いたところ、「文藝春秋」や「中央公論」「新潮」などの名前が五位以内にずらりと並んでいた。

昨年、或るマスコミが同じ調査をしたところ、十位以内にことごとく漫画雑誌の名が並んだ。

四十年前の親は他人の前で、我が子に敬語を使うなどという恥かしい真似は一切しなかった。子供をそっちのけで親が受験に奔走する人がいると笑い物にされた。義務教育しか受けていない母親でも、我が子が他人に迷惑をかけたら泣いて叱った。我が子の尻を叩いた。そのおかげで我が子はよき友を得、集団生活の楽しさを知った。

(平岩弓枝『言葉の常識』)

【1】 空欄⑦①に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 1 2】

① ⑦ ① 自重 ② 付度 ③ 遠慮 ④ 自制 ⑤ 配慮

② ① ① 程 ② 節 ③ 段 ④ 度 ⑤ 折

【2】 二重傍線部「馬鹿さ」に続く*として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 3】

③ ① 加減 ② 具合 ③ 水準 ④ 度合 ⑤ 次元

【3】 この文章の作者・平岩弓枝の作品として正しくないものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 4】

④ ① 『^{たがねし}鑿師』 ② 『花影の花』 ③ 『御宿かわせみ』 ④ 『西遊記』 ⑤ 『みをつくし料理帖』

【4】 波線部のように記した筆者の思いとしてふさわしいと考えられるものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 5】

- ⑤
- ① 子育てに臨むにあたり、まずは親が自身を振り返ることが何より大切と改めて痛感した、という思い。
② 世のなかで最も大切なことは何か、きちんと理解できている人は学歴などと無関係だ、という思い。
③ 生きていくには何が大切か昔の親は理解しており、我が子に厳しかったのはそのためだ、という思い。
④ 人として最も大切なことは何かを忘れず、言葉の力を信じ子育てに臨まなくては、という思い。
⑤ 人に迷惑をかけることが基本であり、それを身に付けて初めて社会に受け入れられる、という思い。

二次の文章を読んで、後の【5】～【10】に答えなさい。

二週間にいちど、癌研の泌尿器科に通うようになって、三年がたつ。中に三カ月におよぶ再入院の期間をはさんでいるが、厄介な、重い病気の術後の経過としては、予想をこえた上[Ⓐ]シュビといわねばならない。

術後の管理を終って退院を許されたとき、私は亡き数に入ることまぬがれた身の幸いに深く感謝したが、蘇ったいのちの先を三年向うに見るなどは想像のほかだった。終生の病院通い、毎日の服薬、仕事はこれまでの四分の一見当、そういった心細い日常ながら、疲れやすいことを別にすればどうという苦痛もなく日を[ⓐ]ことのできるのは、何という仕合せだろう。

隔週の火曜日、九時半に家を出て十一時前に病院に着く。毎度妻が付き添うのは足許が危ういせいもあり、またそれが夫婦のさやかな外出の楽しみともなっているからである。一時間あまり、時には二時間ほども待って、診察は顔を見てもらう程度ですみ、月にいちど採血のため検査室にまわる。薬をもらい、支払をすませると一時を過ぎるのが例で、池袋のデパートでおそい昼を取り、ちょっとした買物をして帰れば夕方にちかい。銀座に出たり、美術館に足をのぼしたりしたこともあったが、再入院をしてからはそれも億劫で、すぐにも疲れるので、ついでに買物をしたがる妻をせきたてて付添いの[ⓑ]に立ち返らせ、帰りをいそぐようになった。

前立腺のものは骨への転移がおそれられている。血液の諸検査のほか、半年ごとに「骨シンチ」と呼ぶ同位元素を注射する検査があって、指定された日の早朝に家を出て半日を病院に過ごす。どの検査も結果はつぎの定期診察で知らされ、異常はないと聞かされて帰るときの気持はかくべつである。もっとも、主治医の言葉をすっかり信じることもならない。病気の性質上止むを得ないところもあり、これまでも経験のあるところだが、本当に悪ければ葉がかわったり、入院をすすめられたり、何らかの反応がある。ひとまずは安心し、「まだしばらくはいける」と思う。賑わうデパートの「食堂街」で天麩羅やうなぎを人並みに食う気になるのはそういうときだが、するとテキメンに夜の食事にひびく。何はともあれ、「寝るが極楽」の身上ゆえ、帰ればすぐにも横になって一寝入りする。

つらいことは忘れるものだというが、そのとおりだと思う。癌研の敷居を跨いでも、発病のころの不安や、不安が次第に現実性を帯び、それももっとも恐れていたかたちのものになっていったときの悲痛な胸のうちなどは、ほとんど思い出すことがない。忘れられるから生きられるのだと思う。いや、忘れられるわけではない。それらの[Ⓐ]は、入院、術前検査、手術、術後とつづく、逃れたく、逃れようもなく、そして二度と体験したくないつらい日々へと引継がれ、濃い[ⓒ]の色に染まりながら記憶の底に沈んでいる。記憶は、浮きあがり、訴えようとするだろう。が、それは大方いつも、何かによって押し込められ、癌研というその体験の現場に臨んでも、いまの私のような再々の訪れではなおさら、めったに想起の引金になることはない。何かによって——記憶を押え込む、その何かとは何か。私はそれを生きる意志と呼ぼう。意識にはのぼることのない意志であるから、本能と呼ぶのがよいのかもしれない。

そのような記憶の一つ、上野に夜桜を見にいったときのことを、暗箱の底をさぐって取出してみよう。病気が動かしがたいものになって、夏に手術を受けた年の春である。

頻尿が心配で外来を訪れたのはその前年の冬のころであったと思う。前立腺の腫大はいうほどのことはなく、半年後の受診を約して一応の安心は得たものの、頻尿と尿道の奥の排尿時における沁みるような感じはつづいて、春のころには、どうかすると血が混っているかと思われる尿の色を気にしたりしながら、再診を乞うのがこわく、何事も気のせいと自分をごまかして、一日一日をやり過ごしていた。今になって思えば、わが[Ⓒ]キョウダは声をあげたくなるほどのものだが、私は自分から目をそらし、逃れようとし、一方では手遅れだとする深い怖れに苛まれていた。身と心の疲れは人の目にも映るらしく、言葉に出して心配してくれる人もいて、怖れはつものだった。

夜桜見物は覚悟の花見という気持があった。夜桜の下で、ぼんぼりの光に浮いて、弁当を開く。いちど、そういうことがしてみたかった。妻と二人、にぎやかな車座と車座のあいだに小さく場所をとって、しずかに酒を呑んだ。桜の山は人の山がいい。あたりは騒々しければ騒々しいほどいい。そしてこころはしんと寂しかった。花が散り、隣りの連中が酔にまぎれて枝を揺さぶると、満枝の花はたまらずふぶきと降りかかって、喚声が沸き、

花は膝の上の折詰にも散った。

村上華岳の初期の作品に、「夜桜之図」と題する、とろりとして、男女ことごとく狐に化かされたか、それとも尻尾でもありそうな、① 感じの一枚がある。

その感じだった。私は花に疲れ、花に憑かれて、正気をうしなった。以来、病気が確定したときも、入院と手術のときも、外来治療に移って三年になる今日だいたいまも、狐に化かされつつけているのだと思うことがある。そして誰かが、肩に手を置いて、「君は無病だよ、息災だよ」と言ってくれる日を待つ気になる。それが、ほかならぬ、息の止む日だと、知っていながら。

(上田三四二『病院通い』)

【5】 傍線部A③B④Cの漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 6 ～ 8】

- | | | | | | | |
|---|---|------|------|------|------|------|
| 6 | A | ① 手尾 | ② 首眉 | ③ 種尾 | ④ 首尾 | ⑤ 守尾 |
| 7 | B | ① 靦面 | ② 靦免 | ③ 摘面 | ④ 靦綿 | ⑤ 擢面 |
| 8 | C | ① 怯墮 | ② 驚懦 | ③ 怯惰 | ④ 怯懦 | ⑤ 怯妥 |

【6】 空欄ア①に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 9 10】

- | | | | | | | |
|----|---|-------|--------|--------|---------|-------|
| 9 | ア | ① 個別 | ② 随時 | ③ 逐一 | ④ 丹念 | ⑤ 個々 |
| 10 | イ | ① 訝しい | ② 痛ましい | ③ 疑わしい | ④ 如何わしい | ⑤ 妖しい |

【7】 二重傍線部「日を」に続く(a)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 11】

- | | | | | | | |
|----|-----|------|-------|-------|-------|-------|
| 11 | (a) | ① 亘る | ② こなす | ③ 埋める | ④ かわす | ⑤ 過ごす |
|----|-----|------|-------|-------|-------|-------|

【8】 二重傍線部「付添いの」に続く(b)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 12】

- | | | | | | | |
|----|-----|------|------|------|------|------|
| 12 | (b) | ① 立場 | ② 本分 | ③ 仕事 | ④ 身分 | ⑤ 役目 |
|----|-----|------|------|------|------|------|

【9】 二重傍線部「の色」の前に置く(c)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 13】

- | | | | | | | |
|----|-----|------|------|------|------|------|
| 13 | (c) | ① 感情 | ② 情動 | ③ 情熱 | ④ 激動 | ⑤ 激情 |
|----|-----|------|------|------|------|------|

【10】 波線部のように記した筆者の思いとしてふさわしいと考えられるものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 14】

- | | |
|----|---|
| 14 | ① この三年間、狐にでも化かされてきたような、それを信じたいような、そんな日々だった、という思い。
② 頑張っては来たものの、何故自分だけがこのような病をと、依然として受け入れられない、という思い。
③ 心の安らぎはなお得られていないものの、自らの運命とともに残りの生を受け入れて行こう、という思い。
④ 花の舞うなかでさ迷ってきたこの日々も、まもなくその最後を迎えるという、絶望に近い思い。
⑤ 真のやすらぎの得られる日こそ自らの命の尽きる日だと理解しつつも、もどかしさに充ちた思い。 |
|----|---|

三次の【11】～【15】の記述のなかの□に用いる言葉としてふさわしいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 【11】 「彼が風邪で三日も休むなんて、まさに鬼の□だ。」【解答欄は問 15】
- ① 反乱 はんらん ② 酒乱 しゅらん ③ 紊乱 びんらん ④ 錯乱 さくらん ⑤ 霍乱 かくらん

- 【12】 「せめて最終回には得点して、一矢を□たいものだ。」【解答欄は問 16】
- ① 稼ぎ かせ ② 投じ とう ③ 報い むく ④ 放ち はな ⑤ 繋ぎ つな

- 【13】 「彼女はそういった心無い言動に、何の□も感じない人間だ。」【解答欄は問 17】
- ① 痛痒 つうよう ② 怨念 おんねん ③ 昂揚 こうよう ④ 限界 げんかい ⑤ 至福 しふく

- 【14】 「仕事のうえでは常に、相手との間合を□ことが不可欠だ。」【解答欄は問 18】
- ① かせぐ ② さける ③ のぼす ④ はかる ⑤ かわす

- 【15】 「その行為は、敵に□を送ることだと、各方面から称賛された。」【解答欄は問 19】
- ① 飴 ② 塩 ③ 密 ④ 毒 ⑤ 水

四次の【16】～【20】の四字熟語の表記として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 【16】 【解答欄は問 20】
- ① 「頑迷故老」 ② 「頑迷固陋」 ③ 「頑迷鼓楼」
- ④ 「頑迷固老」 ⑤ 「頑迷孤陋」

- 【17】 【解答欄は問 21】
- ① 「衣食同源」 ② 「移植同源」 ③ 「医食同源」
- ④ 「異色同源」 ⑤ 「委嘱同源」

- 【18】 【解答欄は問 22】
- ① 「有為天変」 ② 「有為転片」 ③ 「有為点変」
- ④ 「有為転変」 ⑤ 「有為転辺」

- 【19】 【解答欄は問 23】
- ① 「一機呵成」 ② 「一騎呵成」 ③ 「一期呵成」
- ④ 「一輝呵成」 ⑤ 「一気呵成」

- 【20】 【解答欄は問 24】
- ① 「無知蒙昧」 ② 「無知妄昧」 ③ 「無知蒙舞」
- ④ 「無知毛昧」 ⑤ 「無知蒙邁」

五次の【21】～【25】のなかで、他の四つとは明らかに異なる作風・傾向の作品・作品集、及び作者・編者名を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【21】 【解答欄は問 25】

- ① 『枕草子』 清少納言
- ② 『万葉集』 伝大伴家持
- ③ 『古今和歌集』 紀友則ほか
- ④ 『新古今和歌集』 藤原定家ほか
- ⑤ 『みだれ髪』 与謝野晶子

【22】 【解答欄は問 26】

- ① 『忍ぶ川』 三浦哲郎
- ② 『飼育』 大江健三郎
- ③ 『恍惚の人』 有吉佐和子
- ④ 『沈黙』 遠藤周作
- ⑤ 『パイプのけむり』 團伊玖磨

【23】 【解答欄は問 27】

- ① 『飢餓海峡』 水上勉
- ② 『感傷旅行』 田辺聖子
- ③ 『婉という女』 大原富枝
- ④ 『日本の黒い霧』 松本清張
- ⑤ 『一絃の糸』 宮尾登美子

【24】 【解答欄は問 28】

- ① 『どんぐりと山猫』 宮沢賢治
- ② 『どكتورマンボウ航海記』 北杜夫
- ③ 『龍の子太郎』 松谷みよ子
- ④ 『手ぶくろを買いに』 新美南吉
- ⑤ 『キューポラのある街』 早船ちよ

【25】 【解答欄は問 29】

- ① 『秘密の花園』 F・H・バーネット
- ② 『くるみわり人形』 E・T・A・ホフマン
- ③ 『オリエント急行の殺人』 アガサ・クリスティー
- ④ 『二人のロッテ』 エーリヒ・ケストナー
- ⑤ 『赤毛のアン』 L・M・モンゴメリ